

人生100年 健やかに生きる

NPO法人 ならスポーツクラブ理事長

（）体育・スポーツとともに

（7）

北 良夫（91）

わかくさ国体が決まり、1980年、各競技団体の指導者を集め、講習会が開かれた。講師として招かれたのが、当時日本体育協会（現日本スポーツ協会）の理事であった、大西鉄之祐先生であった。

ラグビーの名門早稲田大学を率いられた名監督とは聞いていたが、ご出身が戦前の奈良県立郡山中等学校（現郡山高校）の陸上競技部だつたと聞いて驚いた。

ラグビーが培った心

時は北海中学）選手と全国中学校陸上競技大会で総合優勝を競った堀絹一郎氏（郡山中）を尊敬して、競技部に入部して活躍されたという。堀さんは私も指導者になって親しくご指導を頂き随分お世話を

新聞記事で知り、お聞きしたかったこと�이いっぱいあつたのに悔やんだ。その後先生の綴られた「闘争の倫理」を、書店で見つけて夢中になって読んだ。先生のラグビーを通してのスポーツ論はとても

が2年後に迫った夏、県のラグビー成年の部チームが、島根県の稻佐海岸で合宿をしていました時に起きた出来事がある。昼食後の休息時に目の前の海水浴場で小学生が、高波にのまれ助けを求めているの

主将でチームの要として活躍し、部員からも厚い信頼を寄せられたといった。他人の危険を目前にして、自分

は、勇気のあることは、小賀野先生の行動はラグビーで培った不屈の精神が、ためらうことなく海に飛びこませた

非常事態で示した勇気

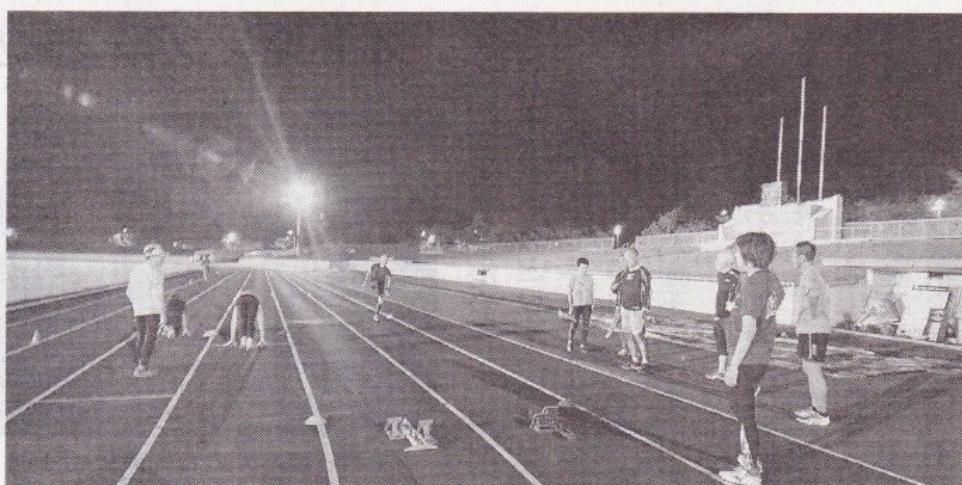
になつたので、余計に親近感が湧いた。早稲田大学に進学後はラグビーで大活躍、後全日本監督も務められ数々の好成績を残されてゐる。講演会後、數回お目にかかる機会はあつたが、先生とスポーツを語ることはなかつた。

95年、先生の訃報を

82年、わかくさ国体

を見て、数人の選手が海に飛び込み、流される4人の子どものうち3人を助け揚げ、あと1人を助ける途中に力尽きて帰らぬ人となつた小賀野直一先生。

彼はこの春大学を卒業して、県立王寺工業高校に着任したばかりの新任教員だった。大



スポーツで培う不屈の精神ー。陸上競技愛好者が集まり、日々練習に励む「ならスポーツクラブ陸上競技『友の会』」。スポーツで得るものは大きい=ロートフィールド奈良

手を差し伸べることであろう。ラグビーは男の中の男のスポーツ、彼は眞のラガーマンであった。大西先生の綴られた「闘争の倫理」には、人はことに当たつてそれで命を落とすかもしれない、でも正しいと思うことはその人の覚悟と責任においてできること。判断がいい悪いではなく、そういう場面に出会つたら、瞬時に行動できることが重要。これを教えるのがスポーツである。と述べられている。

大西先生のスポーツへの期待の言葉はそのまま、ラグビーに青春をかけてこられた小賀野直一先生の姿であり、眞のスポーツマンシップを示された先生の勇気は、40年経つても脳裏に刻まれて忘れる事はない。

載予定

|| 第2、4金曜日掲